

平成28年度 まちづくり懇談会

豊平地区会場の要旨

平成28年10月14日（金） 19:00～20:50

豊平地区コミュニティセンター 参加者 72名

市長あいさつ

市長：みなさんこんばんは。秋も深まってまいりました。今年は長雨で思うように稲刈りができなかったわけですが、だいぶ目途はついてきたんですかね。大変をされているかと思います。また御柱年ということで、各地で小宮が行われました。豊平地区はほぼ終了したかなと思います。それぞれお声をかけていただいたことに改めて御礼申し上げます。本日はお疲れのところ28年度のまちづくり懇談会にご出席いただきありがとうございます。テーマは茅野市の未来予想図いっしょに語ろうということでこのあと皆さんと意見交換をしてみたいと思います。若干挨拶をかねましてご報告させていただきたいと思います。まず10月からバスのダイヤがだいぶ変わりました。基本的にはビーナちゃんバスが週1回から2、3回になります。各戸にダイヤが配布されていると思います。ぜひ大いにご利用いただきたいと思います。今日までが無料キャンペーンでした。なかなかここにお越しの方は自分の車で移動される方が多いかと思えますけれども、公共交通も利用させていただきたいと思います。このあとじっくりと皆さんとお話してみたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

豊平地区コミュニティ運営協議会副会長あいさつ

豊平地区コミュニティ運営協議会副会長：こんばんは。本日は本来会長がご挨拶申し上げるところですけれども、ご都合が悪いということで役が回ってきました。皆さんお顔を見るとハガキをいただいた方は皆さん出席のようですけれども、毎回まち懇には私も出席しているわけですが、ご意見の場になると意見がなかなかないので、活発なご意見をいただきたいと思います。余談ですが、私も百姓をやっているところ精神的によくないんですが、皆さんよろしくお願ひします。今日は行政から責任のある立場の方にご出席いただきまして、毎年そうですが活発な意見を出していただけるようお願いしていただきたいと思います。私も区長をやったことがあって要望書に対して配慮していただいてうれしく思った記憶があります。今回は行政でも教育長さんが変わったりで、その辺もよろしくお願ひします。また議員さんもお出席いただきありがとうございます。とりとめのない挨拶ですがよろしくお願いいたします。

—テーマと資料の説明 内容は宮川地区を参照—

市長：未来予想図をお示しいたしました。これは行政の方で考えたものですので、これが全てではございません。皆さんの思いをお聞かせ願えればと思います。特別このテーマというのではなくして、フリーに意見交換をしてみたいと思いますので、この資料に載っていることで

も皆さんがお考えのことでもかまいません。

市民： 今市長の話の中に大学との連携でまちづくりというのがありましたが、理科大を卒業した方が地元で大いに力を発揮できるようなまちづくりをぜひお願いできればと思います。もう一点、茅野は世界から選ばれる観光地域ということで、現在茅野市はちょっと通過点になっているのかなと思います。こんなにいい観光地ですので、観光巡りでは一泊しなければならぬというような観光巡りを作っていただければ、茅野市にお金が落ちるといえることができるのではないかなと思います。

それから教育長から教育のこと、話がありました。その中で協働という言葉がありました。いろんな意味があると思います。学校教育、家庭、地域で子どもを育てるということを含めた協働であってほしいなど。やはり子どもたちには村の中で大きな声で遊んでほしいわけですが、あの子はどこの子だいということではいけないので、地域で交流を深めながら地域で子どもを育てることが大事かなと思いました。

市長： ありがとうございます。まず理科大の件ですが、現在も理科大卒業の7割は県内に就職をされています。非常に存在意義がありますが、もっと県内よりも諏訪県内に就職していただけるような形を作っていきたいと思います。それには地元企業の皆さんに、理科大と今まで以上に連携を持っていただいて、正直理科大の生徒が地元こんないい企業があるんだということあまり知らないという部分がございます。インターンシップの制度をさらに充実させたいと思いますし、双方向から生徒をサポートしていきたい。茅野のまちに理科大の生徒の姿あまり見えないじゃないですか。これもいかなど。でもバスにはかなり満員に乗っているんだよね。茅野市のバスで都会のバスみたいに満員なのは理科大バスくらいですので、それだけの生徒がいますので、市内全域とまではいかないですけども、駅周辺ではいい意味でたむろして、時間をつぶして家に帰る環境づくりもしていきたいと思います。

それから観光地域づくりですが、お手元に観光地域づくり出前相談会という、ちの旅は花束というようなものがあるかと思います。茅野市では観光まちづくり推進室というものを作りまして、これから観光まちづくりを専門にやっていく高砂という人間を採用しました。長崎の小島で活動をしていた者ですが、縁あって茅野市金山に居を構えまして、茅野市の住人として働いてくれています。彼が自身の経験から話をしますので、ぜひ皆さん、たとえば上古田は遊休農地が増えているけどいいアイデアはないかということでもかまいません。あるいは年配者が地域でできる仕事はないかという観点でもかまいません。ぜひ呼んで話を聞いていただければと思います。観光が持つ役割の再構築とありますけれども、観光地づくりでなくて観光まちづくりということで、今まで観光は第3次産業、サービス業の一部でしたけれども、1次から3次まで跨るような、教育、文化含めて串刺しにして観光をベースとしたまちづくりをしていきたいということで、資料にどんな過ごし方ができるかということで、先程も通過点じゃだめだ、一泊二泊していけるような体験型の商品を作っていかなければいけない。そこにこんなことが

できる等々書いてありますが、そこに空白のものがあると思います。ぜひ皆さんだったらこんなことだったら地域で観光ができるのではないかということを書いていただければと思います。ポイントは通過でなく体験してもらうことだと思っています。そんなまちづくりをしていきます。もっと具体的に言いますと、これまでも観光をしょってきたのは観光協会です。観光協会は観光事業者の団体なわけですよ。これからは観光事業者を含めた、観光事業者だけではない団体にしていきたい。仮称ですが茅野まちづくり推進機構みたいな組織にして、地域全体で観光まちづくりをしていく。そんな取組をしております。10年後にはしっかりとした取組を根付かせたいと思うところです。

それから教育の協働ですけれども、共に学ぶということですよ。教育長、説明を。

教育長： 私たちの考える協働は、たとえば縄文時代の人は30歳が平均寿命だった。それから生まれた赤ちゃんもほとんどが死んでしまう。そういう中でぜひ子どもたちが育っていくように、縄文のビーナス、仮面の女神が作られた。それから竪穴式住居の入口のところに穴があった。そこに亡くなった赤ちゃんを埋めて土をかけた。女性はその上を通ると亡くなった赤ちゃんがきつとお母さんの中へ戻るだろうという考え方がありました。そういう中で人々がみんな助け合って生きてきた。だから一万年も平和な時代が続いた。そのところでみんなが助け合っていく。一緒に学ぶ一緒に育てるという意味で協働という言葉を使っています。だからそういう気持ちを子どもたちに育てたいと思います。それから地域で一緒に子どもを育てたいという気持ちは、豊平小の校長先生、うんと自慢してください。

校長： 豊平小は地域に支えられている学校だなと思っています。今縄文の話が出ているんですが、1～6年生、それぞれテーマを決めて学習を進めています。三年生は縄文マップを作ろうということで、周りの縄文遺跡だとかを地図にしていこうとやっています。四年生は竪穴式住居をつくらうということで、三つ目だということですが、たまたま保護者の方がPTA作業に来られていて、私たちも竪穴式住居を作ったんだと。学校の授業は覚えていないけどそのことは覚えているんだと。そのときは休みの日もみんなで作ったと。今作っているんですが、柱を切りだすにあたって、米沢の学有林に行って子どもたちで1キロにわたって引っ張り出して、その後トラックで運んでもらった。そして自分たちで皮をむいて、これから建てる準備をしているんですけれども、萱を刈ったりしたりして準備を進めています。それから五年生は石斧を作って木を切って御柱をやろうと計画しています。石斧つくるときも一人じゃできないんですね。誰かが押さえていないととか。それで岳麓公園で、ある子のおじいちゃんが山を持っていて、切っていいということで市のバスで石斧を持っていったんですね。9月末に行って、みんな御柱をやろうということで法被を着て、石斧を木に立てて塩でお清めをしてみんなで全員が柱をやった。なかなか石斧だと切れないですが、それでも半分ぐらい切れたんですね。担任はもうチェーンソーで切ると思っていたんですが、もう一回やりたいということで切りに行くんですが、やっぱり一人一人が協働ということで一つのことをやろうとして、実際に御柱を曳きつけ

てみたいと思っています。六年生は劇づくりをしたいと。学んできたことの最終系として、保育園や地域の方に発表したいということで、二月二十五日に豊平の日ということで、それぞれの学年でやってきたことを発表します。その中で地域の方に発信したり、教えていただきながら学習を進めていることが私は大きいことなのかなと思っています。

それから先日学校の前で挨拶運動をしていただきました。豊平の子ども、なかなかシャイな子どもが多くて大きな声が出ないんですが、普段以上に大きな声を出すんですね。挨拶にしてもそうですが、地域の方が子どもたちのことを考えてくれるというのは本当にありがたいです。それから保育園ともつながりが強くて、保育園の子たちも夏休み、学校のプールに泳ぎに来たりですとか、音楽会でも年長さんが歌を歌ってくれるんですね。私たちも保育園に行って実習して子どもたちと泳いだりするんですが、そういった学校と地域だけでなく、保育園ともつながっている。それから中学校も、先ほど小中一貫教育のことがありましたが、北部中は北山、豊平、湖東小の3校が行くんですね。この前中学校一年の授業を見に行ったら、他の小学校の子どもたちと本当に仲良くしながらグループでやっているんですね。小中一貫教育の良さってというのは違う学校から来ても同じようなスタイルでグループで話し合っただけで学習しているので、そのまま中学に行ってもつながっているというか、そんなことも含めて地域と学校と保育園とがひとつにまとまっているっていうか、地域で学ぶことになるんじゃないかなと思っています。

市長： 校長先生の熱い想いが迸っていました。ほかにどうぞ。

市民： 理科大のことについて、先日新聞に載っていた内容で、河村学長が理科大から独立するのは大変なチャレンジじゃないかということで、独立するってことは東京理科大学をなくしてということですかね。それから市長さんの感触として任期中に実現したいということでしょうか。それとも数年以内かいく先は分からないということでしょうか。それと理科大のネームバリューはかなりのものかと思いますので、名前は変わらないと思うんですが、実は孫が選択肢の一つとして理科大を選んでいまして、はたしていけるかどうかは別として、私の土地を本館の下に畑があって売った経過もありまして、その辺が興味があってみていたんですが、定員割れを起こしたりいい話を聞かないんですが、公立化してぜひやるんだということをお聞きしたいんですがいかがでしょうか。

市長： 理科大の公立化は30年4月に公立大学としてスタートします。よほどの大きなトラブルがない限り、そのスケジュールで進めています。6市町村で一部事務組合を作りまして、そこが設置をしていく。茅野市だけの大学でなくして、諏訪圏域での大学になります。そのことは河村学長が言ったのは、今は東京理科大学の経営の中で諏訪東京理科大学があります。今度は経営的には東京理科大学から独立してやっていくという意味でございます。ただ理科大と連携をする中で、教授のこととか、市町村は素人でございますので、未来永劫とは言いませんが、

しっかりとした公立大学として城を築くまでは理科大と連携しながらさまざまな応援もしていただく中で公立化していくということです。

市民：それと、新聞記事では特色ある大学とあって、理科大と市の関係者で果たしてできるのかということが記者の意見として書かれていたんですけど、その辺の手ごたえは持っているんですか。

市長：特色ある大学ということでひとつは、経営情報学科があるんですが、これは文系なんですよね。これは4月から工学部一本としてスタートします。このことによってものづくり産業の地である諏訪圏の企業にとっても役に立つ大学ということでスタートします。具体的なカリキュラムは素人ですので、大学の皆さんが組み立てていくということでございますけれども、農業工学という、農業も盛んですので、そういった展開も図るべく研究センターもスタートしました。この地に合った特色をどう付与していくかは大きなポイントだと思っています。

市民：大学が栄えるというのはたいへんな事業かと思しますので、市長さんの手腕には期待しています。話が変わりますが、中山間地域の県の補助事業の中に、セギの補助事業をお願いしておりまして、事業に取り掛かるのが29年度といわれていますが、現在進行している補助事業の状況をお聞きして、予定通りいくのかいかないのか。三千万くらいの事業で、状況が変わったとかのことを聞きたいんですが、順調に運んでいる内容なんですか。

市長：どこのセギでしょうか。

市民：小泉山の麓から栗沢区と共同で改修の要望を出しています。

市長：そのセギは大きい意味で取りかかっているというのは承知していますけれども、具体的に進捗は理解しておりませんので、担当課の方から状況等をお知らせしたいと思います。いずれにしても大工事になりますので、市の単独ではやりきれないので国の補助事業を充てていくなかで取り組むと思います。

市民：資料の最後のこれからも元気なまちであり続けますというのは大賛成であります。市と一緒に市民も協力していくことは吝かではございません。それで資料に市民アンケートの結果ということで、分析の中で、重要度で二番高いのは災害に強い、安全で明るいまちづくりというのがあがっているんです。その少し下に来ると安全で快適な道路・河川の充実とか、安全というものが高いですが、その中から選ばれた重要なまちづくりのテーマとしては地域コミュニティ、産業振興、子育て・教育といった中で、四番目に入っているかもしれませんが、こういった災害に対するものがこれからのテーマに入っていないのは何か理由があるのかお聞かせ

いただきたい。

市長： 特別入っていないのには理由はございません。基本的には生活していくすべての項目が重要と理解しています。ですから安全・安心の取組も第5次の総合計画には大きな柱として位置づけられる項目になろうかと思えます。今回3つ取り上げたのは特徴的な取組みとして取り上げたので、これが全てでなくて、安全・安心なまちづくりは今も進めていますけれども、大きな柱として進めてまいりますのでご心配なく、またご意見をいただければと思います。この安全・安心もソフトとハードがございます。ハードの対応もしていかなければいけませんし、地域の支え合いというソフトの部分も対応していかなければいけない。今年の総合防災訓練では下古田区さんにモデルになっていただいて取り組んでいただきました。その反省等も踏まえながら取り組んでいきたいと思っています。

市民： 台湾との交流について、中学生と交流するときのお願いということで、私の先祖が南の方の港で先生をやってきたということがあって、阿南の公立学校と思えますが27歳で亡くなって、交流をしていることが常にやってもらいたい。墓石にもそういったことが刻んでありますので、ぜひ伝えていかなければと思いますので、場所はわかりませんが、阿南でやっていたのでそちらにも広げてもらいたいなという気持ちです。

市長： 台湾との交流では高雄市との四つの中学と茅野市の四つの中学、それと一つの小中一貫校と茅野高校が姉妹校提携をしています。高雄は南なので、高雄のどこかの港なのかちょっと分かりませんが、調査をさせていただきます。高雄市は人口230万人くらいの市なんです。ですから規模は長野県と同じくらいで、5万6千の茅野市とよく交流してくれたなと思うんですが、高雄市の市長さん、教育局長も熱心で、四中学の校長先生も熱心に取り組んでくれています。中学校もでかくて、一つ3千人くらい生徒がいるんですね。少なくとも千人いるのかね。それぞれの学校がペアリングをさせていただいています。これは台湾へ観光のトップセールスに行った時にたまたま中学校も教育旅行の一環で見させていただいて、非常に英語のレベルが高いんですね。当たり前で数学の授業を英語でやるみたいなものを見まして、非常にショックを受けまして、日本の中学は英語の授業では多少使うでしょうが、他の授業で英語は使わないだろう。これは交流をさせてカルチャーショックを与えなければいけないだろうと、そんな思いから前教育長に相談して始まりました。始まってまだ二年目ですが、しっかりとこれから絶対日本人も英語を話せなければ企業人としてやっていけない時代が来ると思います。そんなことも踏まえて取り組んでいきたいと思っています。

市民： 先程来大学の話が出てきていますが、諏訪の工業メッセとか私も大好きで、3年連続でいって、それなりに楽しかったんですが、理科大でも人が呼べる内容をやって、校内に入ったこともないということで、気楽にいけるような親しみが持てる大学というか、文化祭もい

いですが、人が行けて楽しめたり勉強になったりするイベントを設定して、それが大きくなって一年に一回楽しめるものを市の方からも取り組んでもらえればと思います。

市長：ありがとうございます。今も理大祭をやっていますので、ぜひ気軽に言っていただきたいなと思います。どうしても大学ってそれだけで敷居が高くなってしまうというのは理解しています。払拭する中で理大祭を中心にいろんなイベントをやっていくというのは大事なことかと思っておりますので、市民を対象とした講座もあるかと思っております。理系の大学ですので、レベルも高いものもあるかと思っておりますが、そうであっても講座自体わかりやすいものを作っていかねばと思います。またしっかりと公立化する前でも取り組んでいける内容かと思っておりますのでご意見を理科大にも報告いたします。ぜひ理大祭にも顔を出していただければと思います。

副市長：補足をさせていただきます。理科大には市民に開放している施設がございます。情報プラザも市民の方が自由にいただいて、ITに触れていただいたり講座をやったりしています。それから図書館があります。あそこにはかなりの蔵書があります。一般図書から専門書まで、理科大生はもちろんですが、市民の方も自由に入っていただけるので、ぜひ気軽に入っていただければ。先生方も地域に開かれた大学としてやっていますので、ご利用いただければと思います。

市長：それでも正直入りにくいよね。どうやったら入りやすい大学になるかは大事なことかと思っておりますし、かといって入りやすすぎて変な人が入ってきて困るので、取り組んでいきたいと思っております。

市民：TPPについて、3年前に聞いたのですが、そのときは基本的に賛成だと言っていらっしやったのですが、先日ある講演会で、医療介護も現状より貧乏人にとって保険が利かなくなったり不利益が生じるのではないかと聞いて、不安になっています。農業以外の内容について市はキャッチされていますか。非常にお金がかかるのではないかと心配されている人がいるんですが。TPPをあまり理解していなくて農業のことばかり気にしてきたのですが、それ以外のことがどうなるか心配なのでお聞きしたいと思っております。

市長：国の方から市へどうだという情報は来ていません。ですので、新聞とかテレビで情報を得る範囲です。ですので、確かに農業以外にも知的財産であったり医療であったり様々な影響が出てきます。考え方ですけど、一つは日本だけがという時代ではなくなっています。経済にしても、日本としてやっていかなければいけないことがたくさんあります。市も予算組みをするときに国の地方交付税を充てにしています。そういう意味ではこんなに借金していいのかということがあっても、現実、市もまちづくりをしていく上では金が必要になってくる。そのことを日本だけあればみんな我慢しようとなるでしょうが、地球規模でいろんな経済が

動いている。日本だけ見て解決はできないと思っています。その中で日本を守っていかなければいけない。なおかつ世界を相手にしていかなければいけない。そこに知恵を出していくということになると思いますし、外国人労働者や違った意味で難民ということもあります。その難民の問題を解決するために、たとえばシリアの難民をどこがどう受け入れるかではなくして、本来はシリアという国が安定した国になれば難民は出ないわけで、国際社会がどうかかわっていけるか、私の頭ではこうすればいいという答えが出ませんが、基本的には大きい枠組みの中でこのTPPもあると思います。日本の農業も守らなければいけない。かといって日本だけを閉じた国にするわけにもいかない時代だと思います。その情報は国の方からこうだというのは来ていません。

市民： 小中一貫教育について、今現在は小中一貫教育が始まるという言葉だけ聞いていて、豊平小学校では大多数が行く北部中学校と連携をして進めていくというイメージがあります。そうすると一部は東部中に行く子どももいます。その保護者としては東部中に行く子どもをないがしろにしているイメージがありますが、今聞いた話だとそういうイメージではないようですが、たとえば豊平小学校は北部中学校と連携をしてということではないですか。

教育長： 現在の学区どおりで進めていきます。今後のことは中学校区ごとに説明していきます。

市民： 中学校区ということはそれぞれの中学校ごとで、6年生くらいになったら情報が入ってくるということですか。それともはじまる時点で情報がくるということですか。

教育長： はじまる時点で情報がくるということです。

市民： 私は上古田で、東部中学校に行くんですが、入学説明会に行くときに、豊平小学校の行事を配慮せず計画を立てられて参加しにくいという声を聞いて、その辺の配慮もお願いします。

教育長： 十分計画を作る段階で打ち出していきたいと思います。

市民： お願いします。

市長： 非常に大事なポイントなんです。私もこの小中一貫教育のことを聞いた時同じ質問をしました。豊平小学校は北部中も東部中も意識して、永明中も一部意識するのかな。なおかつ豊平小学校として特色ある教育をしていくことはものすごい大変だよなど、校長先生大変だよなど。でも実際それをやっていかなければいけない。なおかつ中学校にしても、豊平の特色と

湖東、北山、米沢の特色を持った学校にしなければいけない。特色だらけでどうするんだって。これはしっかり連携を取る中で、すべて一律でなくてもいいと思いますが、ポイントを押さえて小中一貫教育をしていかなければいけないと思います。

教育長： 豊平小学校には豊平小学校の素晴らしい教育がある。それを絶対に大切にする上で、小中一貫教育をするときに分かれていくわけです。北部中学校区と東部中学校区でやる中で食い違いが出てくるんじゃないかと言われますが、東部中学校区だとしたらこんな姿を目指していく、北部中学校区ではこんな姿と、そこを整理して進めていきたいと思います。実際は各中学校区で説明を行い、グランドデザインみたいなものをお配りできればと思います。その時に不十分な部分もあるかと思いますがみなで知恵を絞って対応する。付け加えると小中一貫教育は全国で進んでいます。ただ多くの小中一貫教育は経済的な理由で行っています。たとえば小学校が子どもがいなくなってお金がかかりすぎる。だからA小学校とB小学校を統合して中学校をくっつけちゃうという小中一貫校が多いです。それがいけないというわけではないですが、茅野市の場合はそういうことで小中一貫教育をするのではなくて、子どもを育てるために行います。

市民： 山浦の農業の維持、農地の維持について、たまたま南大塩でそば刈りをやっていたら矢島議員が来られまして今年のそばの出来はどうだいと話をする中で発展をしていきまして、南大塩も支援事業の看板をかけた稲のコンバインが活躍しておりましたが、営農組合等は全額市の補助でコンバインをいただいたんですが、その支援事業も27年で打ち切りになったと聞いたんですが、基盤整備をして真四角の素晴らしい畑が並んでいるんですが、そばも増えてきている中で、稲ができないので仕方なくそばをしている。そばが儲かるからでなく農地を荒らさないためにやっているの、そばの生産者協議会で刈り取り面積が130町歩まで来ているという中で、そうはいつでも稲作が主であるし、これがあれば農地の維持はできる。荒廃地がなくなるとは思いますが、600万、700万を個人が買って農地をやるのは到底考えられない状況です。減反政策もあと二年で打ち切りで自由となれば競争に入ってくるわけですから支援について、再度市で協議いただいて、営農組織については支援する中で今後も農業を続けられるようなことをお願いしたいと思います。

市長： そばは稲の代わりとして増えてきたのは事実でございます。そばだけで儲かるには一人で経営すれば利益が出ると、昔試算をしたことがあります。補助がなければ儲かる作物ではございません。しかしそういう中でこれだけ増えてきた一大生産地を維持していくには特色ある、そばだけで儲けられるブランドにしていかなければ、そばを、と考えたときにはいけないだろうと思います。これはそば生産者組合とか振興会議だとかで投げかけてきましたが、残念ながらそこまではいっていません。ただ八ヶ岳西麓そばはいいそばと定評がありますので、減反政策が終わってもあり続けるにはどうしたらいいか。関係者の皆さんと知恵を出していか

なければと思いますし、そういう観点で補助や支援をしていくことは必要だと思います。そばコンバインの手当だけでなく、この地域のそばを一段、二段とブランド力をつけて、いいそばでうまく高く売れる産地化を図る上で支援をしていくことでないと、ただコンバインだけあてがうだけではいけないだろうなと思います。また知恵をお貸しいただければと思いますし、営農組合という組織、法人も含めて必要になってくると思いますし、営農組合も高齢化が進んでいるんですよね。その担い手も考えていかなければいけないと思いますし、その部分もご協力をお願いいたします。

私の方から根本的にはことをお聞きしたいんですが、何十年と市長と語る会をやってきて、これはこれで意味のあると思いますが、もっと活発な意見をということであれば、地域の皆さんに今年はこの課題で意見交換やろうじゃないかと、そういう提案を受けることはどうかね。そのためにはとりまとめがあるから区長会か運協かで先ほどあった豊平小学校の学校が分かれることが本当にこれでいいのか、結構アンタチャブルな部分ですが、地域からぜひこの課題でということがあれば、割といいのかになって最近思っているんですが、こちらから投げかけて理解してもらうことも大事ですが、そればかりでなくこの課題でどうだと。たとえば小泉山のオオムラサキはどこまでやるのかということだっていいかなと思うし、集落営農をベースにどこまで可能性があるのかということでもいいかもしれないし、そういう準備もまた違った展開かなと思いますし、またご意見をいただければと思います。

市民： 最初にお話したんですが、集まってくる方を見ますと高齢者が多いですね。高齢者に10年先を語れといっても。もっと若い方に、学校関係者に手紙を出していただいて、内容もある程度明記していただいて出した方がいいんじゃないでしょうかね。ある程度行政で知恵を絞っていただきたいところです。

市長： まだまだ皆さんにも頑張っていたかなければいけないですが、若い方には今回のテーマなんかは10年後、今35歳だから45歳に子どもたちはこんなまちになってもらいたいなというような話が聞ければ一番いいと思いますが、若い方も仕事の関係等で来にくいかなと思います。こちらをもっと意味のあるまち懇になるか考えますけれども、皆さんの方からもPTAの皆さんと市長と語る会とかいうのもいいのかなとも思います。

市民： 今提案していただいた世代別で語るのもいいと思いますし、共通共有する内容は大きい場面でいいと思いますが、行政区で抱える課題はそれぞれあると思いますが、ずくが出せるのであれば3区合同で語る会とかでも聞けるのかなと思うので、個別の出前でもいいのかなと思います。

市長： ありがとうございます。どういう形ができるか検討したいと思います。よろしいですか。なければこれでお開きにしたいと思います。今私が飲んでいる水ですが、パッと見化粧水

みたいですが、残念ながら安曇野市で出している水です。茅野市も蓼科の水を使いまして、5000本だったか、水を作ります。こういった場面とか会合で出させていたきたいなと思っています。非売品ですので会合等で提供いたします。その評価もまたいたきたいと思います。ありがとうございました。有意義な意見交換ができたと思います。これからつくる第5次総合計画の中に反映したいと思いますし、先程話がありましたが、審議会等も作りますけれども若い30代、40代の委員さんを多く委嘱してまいりたいと思いますので、お声がかかったときには喜んでお力を貸していただければと思います。本日はありがとうございました。